

若者の結婚観とその変化

——「指輪」に着目して——

佐藤優希

ライフイベントへの考え方には、そのときの社会の状況が強く映し出される。筆者をはじめとした大学生がこれから直面する可能性のある大きなライフイベントは就職と結婚、そして出産であるだろう。こうしたライフイベントには贈り物や記念品がつきものであり、本卒業論文では「結婚」というライフイベントに付随する婚約指輪と結婚指輪である。

結婚は未婚化や晩婚化が進み、結婚はあくまで人生の選択肢であるという考え方が広まってきている今、これに付随する指輪への考え方にも影響を与えているのだろうか。また指輪への考え方が変化しているならば、雑誌にも影響しているのではないだろうか。本卒業論文では結婚情報誌『ゼクシィ』の広告数調査と大東文化大学の学生に対するアンケートを実施し、若者の結婚観と指輪に対する考えの変化を探った。

『ゼクシィ』の調査からは、広告数の増加、指輪に関する付録や婚約指輪の購入を勧める記事の登場と「たくさんの中から選びたい」、「婚約指輪はいらないかな」という指輪に対する考え方が見えてきた。かつてはマッチングアプリのような役割を果たしていた『ゼクシィ』も、時代による考え方の変化を受けて、様々な選択肢の中から「結婚」という選択をした人たちに向け、手助けとなるよう日々変化していることも分かった。

アンケートからは、結婚まで時間のある大学生には、かつての高度経済成長の時代と同様の「結婚はした方が良い」、「結婚といえば結婚指輪である」という認識が強く残っていることが分かった。一方で、婚約指輪に関しては、購入しなくても良いのではないかと考える人が一定数いることが窺えた。また、「結婚をする」、「指輪を購入する」といってもその内情は変わってきており、どんな人と結婚するのか、どんな指輪が欲しいのか、結婚をする選択をした先も選択肢が枝分かれするようになっていることが明らかになった。